

# 佐伯藩史料 温故知新録

## 第 13 集

### 販売開始



「温故知新録」は、江戸時代後期に佐伯藩 9代藩主・毛利高誠が家老の関谷長熙に命じてまとめた藩政についての史料集です。貴重な古文書や日記・記録を収め、佐伯藩の歴史を知るための基本史料といえるものです。

教育委員会では、この「温故知新録」の原文に現代語訳と解説を添えて、『佐伯藩史料 温故知新録』として刊行しています。

このたび、続刊の第 13 集を発行し、販売を開始いたしました。佐伯藩の出来事が詳しく書かれ、佐伯の歴史の新たな一面を明らかにする貴重な史料といえます。

購入は、佐伯市歴史資料館又は教育委員会社会教育課までお越しくください。郵送を御希望の場合は、歴史資料館へお問合せください。

○価格… 6, 000 円 (税込み)

○装丁… B5 版 布丸背上製本  
箱入り 543 ページ

※第 1～3 集 (完売)

※第 4～12 集 (在庫あり)

#### 《お問合せ》

佐伯市歴史資料館

大分県佐伯市大手町 1 丁目 2 番 25 号

TEL 0972-22-0700

FAX 0972-22-0701

E-mail info@saiki-rekishu.com

URL http://saiki-rekishu.com/

#### 【第 13 集の内容】

##### ① 安永日記

佐伯藩の家老や用人が記した『御用日記』を抜書きしたと考えられる日記です。安永元年 (1772) から同 10 年 (1781) までの記事を取っています。

自然災害などにより藩の財政が厳しくなる中、8 代藩主・毛利高標が官位を得て初の国入りを果たします。若い藩主のもと財政の立て直しに努める人々の姿が読み取れます。

##### ② 切支丹類族出生存命死失帳写

元禄年間 (1688～1704) 以降に佐伯藩が幕府に提出したキリシタンとその一族に関する文書の写しです。江戸初期に藩内にいたキリシタンとその子孫の出生・存命・死亡が逐一記録され、キリスト教が禁止されていた当時の厳しい管理体制を知ることができます。

##### ③ 付図

津久見村組奥河内論所御裁許絵図 并  
裁許状写

17 世紀半ばから約 100 年間にわたって佐伯藩と臼杵藩の百姓が争った奥河内山 (津久見市) 領有の判決を示す絵図と文書の写しです。「安永日記」によると、この争いの関係書類を提出するよう幕府が佐伯藩に命じており、この絵図と関係がありそうです。藩の境界地域の様子がうかがえます。